第３学年　道徳科学習指導案

平成２８年１０月２８日（金）

指導者　中村典子

場所　　３年教室

１　主題名　　友を思う心　　Ｂ　友情，信頼

２　ねらい　　相手の気もちを考えると、行動を共にするだけでない多様な友情の在り方があることを知り、よりよい友達関係を築こうとする心情を養う。

３　教　材　「ないた赤おに」　～「ゆたかな心　３年」（光文書院）～

４　主題設定の理由

①　ねらいとする道徳的価値

友達は家族以外で特に深い関わりをもつ存在である。友達との関係は、共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに影響し合いながら構築されるものである。また、自分のことをよくわかってくれる友達がいることで、心が安定し、毎日が楽しくなり、相手のことをわかろうとする心をもつことができる。

３年生の段階では、友達のことを互いに理解し、助け合い、健全な仲間集団を積極的に育成することが大切であると考える。帰りの会などで友達のよさを伝え合ったり、学級活動や遊びの場面で友達とのよりよい関係について考えたりしながら、実際の場での実践意欲や態度に結びつけて指導したい。

②　ねらいにかかわる児童の実態

…＜個人情報保護のため省略＞…

③　指導にあたって

本教材には、さまざまな友達の形がある。青鬼を倒す赤鬼の姿を見て、信用し始まる人間と赤鬼の関係。一方で、赤鬼が本当はやさしいことや人間と仲よくなりたいと願っていることを理解する青鬼と青鬼を頼る赤鬼の関係。青鬼の言動とその背景にある心情は、赤鬼を真に思うものである。また、青鬼の想いに気付いた赤鬼は、これまでよりも青鬼を深く思うようになる。

この教材を通して、赤鬼が青鬼の気持ちを理解することで、赤鬼と青鬼の友達関係がよりよいものになることに気付かせたい。また、友達との関係の在り方を自分のこととして考えさせたい。

本時のねらいにせまるため、以下のような手立てを考えた。

具体仮説ア　本時の主題に関わる問題意識をもたせる導入の工夫

導入では、事前に行った「友達とはどんな人のことだと思うか」についての意識調査の結果を提示する。児童の「友達とはどんな人のことだと思うか」についての意識は、すなわち、友情を育むために大切にしている価値観の具体的なイメージである。「遊びにさそってくれる」「一緒に何かをする」など、行動を共にすることに価値を置いていることに気付くことで、友達関係について問題意識をもたせたい。

具体仮説イ　自由な思考を促し、話合いが広がったり深まったりするような発問の工夫

中心発問は、「友達と互いに理解し合う」ことを十分考えさせるために、「赤鬼と青鬼は本当に友達か」とする。まず、名前カードをホワイトボードに貼ることで、全員が自分なりの意見をもつことができるようにしたい。その理由をくわしく話す時間をもつことで、「友達と互いに理解し合う」ことの大切さに気付き、その道徳的価値について話し合うことができるようにしたい。また、「これから赤鬼がどうすると思うか」を問うことで、よりよい関係の在り方について自分なりに考えることができるようにしたい。

具体仮説ウ　児童の思考を可視化し、互いの思考が捉えやすくなる板書の工夫

ア　価値の変容の可視化

導入時に示す意識調査の結果の下に終末での児童の価値観を書き加えることで、価値の変容や深まりが視覚的に分かるようにしたい。

イ　児童の意見の可視化

中心発問の「赤鬼と青鬼は本当に友達か」についての児童の意見を、ホワイトボードに「友達だと思う」か「そうではない」か分けて名前カードを貼ることで可視化する。「どちらとも言えない」児童は、その中間に貼るようにする。

ウ　話合いの可視化

中心発問の「赤鬼と青鬼は本当に友達か」についての児童の考えを黒板に書き表す。児童の考えを図示したり色分けしたりすることで、児童の考えを対比的、構造的に示したい。そして、主題に関わる価値観を強調していきたい。

具体仮説エ　自己を見つめ、これからの自分について考えるための道徳ノートの活用

本時の終わりに道徳ノートに学習を通して考えたことを書く時間を設定する。その際、「今までの自分は」「これからの自分は」と視点を示すことで、自らをふり返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるようにしたい。考えるヒントになるように何人かに感想を発表させてから、少なくとも５分程度は集中して書くことで、自分の心と向き合うことができるようにしたい。

5　本時の学習

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導者の支援及び留意点
気づく	1.「友達」について考える。	○どんな人を「友達」だと思っていますか。 ・遊びに誘ってくれる人 ・一緒に何かをする人	・教材を読む前のアンケート結果を提示することで、事前の価値理解の実態が分かるようにする。
深める	2．教材『ないた赤おに』を読んで、友達について話し合う。	○お話を読んで、どんなところがすてきだと思いましたか。 ○青鬼からの手紙を読んで、赤鬼はどうして泣いたのでしょうか。 ・自分は青鬼のことを分かっていなかった。 ◎赤鬼と青鬼は、本当に「友達」でしょうか。 ・「友達」だと思う →助けてくれたから →すごく思ってくれるから ・どちらとも言えない →赤鬼は助けられたけど、青鬼はかわいそうだから →青鬼は赤鬼のことが分かっているけど、赤鬼は青鬼のことが分からなかったから。 ・そうではない →一緒に遊べなくなったから →助け合ってはいないから →どっちもいい気持ちではないから ○これから赤鬼はどうすると思いますか。 ・青鬼に手紙を書く ・人間に本当のことを言う ・青鬼を探しに行く ○「友達」ってどんな人だと思いますか。 ・お互いのことが分かる ・(信じる)	・絵カードを提示しながら、あらすじを確認する。 ・ペアで話すことで、自分の考えを整理することができるようにする。 ・名前カードを黒板に貼ることで、全員の考えが視覚的に分かるようにする。 ・理由をくわしく話させることで、道徳的価値について話し合うことができるようにする。 ・子ども同士で指名し合うことで、主体的に話し合うことができるようにする。 ・出た意見を板書に整理することで思考を可視化する。 ・「友達」かどうか決着をつけるよりも真剣に話し合うことが大切であること、どの考えにも価値があることも伝える。 ・ペアで相談することで、よりよい関係の在り方について、自分なりに考えることができるようにする。 ・理由を話させることで、行動の背景にある心情に視点を向ける。 ・再度同じ発問をし、黒板に書き加えることで、授業の始めに比べて、自分たちの考えが深まったり広がったりしたことが分かるようにする。
見つめる	3．自分の生活をふり返る	○友達との関係について、今までの自分はどうだったでしょうか。これからの自分はどうなっていきたいでしょうか。 ・書く→全体（意図的指名）	・5分間は集中して書くことで、全員が自分の心と向き合うことができるようにする。 ・書きにくい児童には、問いかけながら考えを引き出すように机間指導する。

○　本時の評価（期待する学びの姿）

話合いを通して、友達関係について、今までの自分をふり返ったり、これからの目標を見付けたりしている。　（発言、道徳ノート）